

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972000364		
法人名	有限会社 とらい・あんぐる		
事業所名	グループホーム 葵		
所在地	奈良県磯城郡田原本町千代839-16		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaihosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaihosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成21年12月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から5年が経過したが、キャッチフレーズである「心からの笑顔を・・・」をするべく、レクリエーション中心の介護が実践されている様に思う。五感を刺激するケア、日々楽しい雰囲気や大事にして、利用者もスタッフも共に楽しいという事を感じることを大事にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、職員がレクリエーションを中心に毎日楽しく笑顔で過ごせるように工夫されている。毎朝ラジオ体操や足踏み体操、カラオケを取り入れ体力低下を防止日々の散歩、花見、紅葉狩りと積極的に外出支援も行っている。手作りのおいしいものを食べていただくことと食事作りにも力を入れている。利用者、職員は、仲がよく何でも話し合い、和気藹々としたケアがなされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流としてボランティアで大正琴、ダンス、カラオケ、紙芝居等部外の方の受け入れを行い交流の場を持っている。	「楽しく笑顔で暮らす」という理念をスタッフ全員が共有し地域とのかかわりについても話し合っている。	認知症の方が「地域で生きる」、地域密着型のあり方についても話を進められることを期待する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	レクリエーションで五感を刺激すること、楽しく、笑顔で暮らすという基本理念についてスタッフは考え実践を心がけている。	日常的に散歩や買い物に出掛け地域の人たちと挨拶を交わしている。畑の作物を届けてくださる方もある。	ホームは、「地域との関わりを深める必要がある」と考えておられるので毎月のホーム便りを自治会や近隣に届けることから始め、近隣の人を行事に招く等、一歩踏み込んだ事業者からの働きかけに期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大正琴、カラオケ、紙芝居等の行事の時は地域の方を招待している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員の方から情報をいただき、現在コスモスデイサービスを利用している。	今年度は、年1回の開催に終わった。地域の人の参加要請に苦労している。来年度は、開催回数を増やしたいと考えている。	計画的な開催を考えておられるので家族代表、自治会役員や民生委員、近隣など地域の協力者を見つけ参加してもらうよう努力し充実した会議になるよう期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症の方の受け入れ相談、生活保護者の受け入れ相談を行っている。	町運営のリクリエーションダンス、フェスティバルに参加したりグループホーム交流会にも出席している。パンフレットを届け入居者募集の相談も受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の錠は掛けていない。身体拘束しないケアについても各種研修、ミーティングの機会をとらえ学習している。	見守りの方法を徹底し鍵を掛けず夜間頻繁にベッドを離れる利用者にチャイムを使用していたがポータブルトイレを利用することによりチャイムの使用を取りやめるなど拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修での虐待防止に対する教養を深めスタッフミーティング等で勉強の場を持っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、公的機関等が主催する研修に参加出来るよう配慮したい。会社の代表として過去何度か研修を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に関しては、体験入所を行い、納得してからの契約としている。契約時、不安や疑問が生じないように十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月のたよりに会社代表者の携帯電話への相談苦情窓口として利用を促進し、契約の際にも外部相談窓口の案内もしている。	家族の訪問は頻繁にあるので訪問時に意見を聞いている。また、月便りに代表者の携帯電話番号を掲載して案内している。	家族からは言い出しにくいことも多くあるので、機会あるごとに声かけをしてみる、個別に意見を聞く場を設けるなど意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングや、日々の申し送りの際にスタッフの様々な意見、提案を聞く機会を持っている。	ミーティングや毎朝の申し送りの会で意見を聞き意見や提案についてはその日のうちに解決できるよう取り組んでいる。	自己評価を職員全員で記入し気付きを話し合うなど一歩進めた話し合いを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面で、日々の業務内容を評価し、職務手当で加算、減算を行っている。労働環境も年々改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修については、可能な限り受講出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田原本町内のグループホームが交流する機会があり、管理者と代表者が参加し、意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでに面談を重ね書面での判断はしない。本人の面談も可能な限り行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用入所に至るまでに、体験入所等を行うなどの機会をもち相互の不安をとりのぞく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される本人にとって、グループホームでのケアが最適なのかどうかの見極めを、まず行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位の生活を第一と考え意見を取り入れながら、ライフスタイルを考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には、家族の協力も求めながら一体的なケアを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への訪問時間、回数、訪問者の限定は一切行っていない。	地域のボランティアグループ主催のデイサービスに参加し古い友人との交流を続けている人もある。また、家族とのお墓参りの外出支援を行っている。	外泊する方もなくなっている。家族や知人を行事に誘うなど馴染みの人とかかわりが薄れないような取り組みに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替え等を行いながら利用者同士の人間関係に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のケアや他施設への入所支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重しながら家族、スタッフが話し合いにより本人の思いや、意向にあうケアを提供している。	頻繁に訪問できないご家族の希望を汲んで娘さんが1週間寝起きを共にすることを支援するなど利用者や家族の思いを受け止め柔軟な対応がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所後家族との面談、相談を密にし生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	強制することなく自由に生活していただきながら、レクリエーションや食事等の機会を促し、現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心になって、カンファレンスを行い介護計画の作成見直しを行っている。	3ヶ月に1回ケアマネジャーを中心に介護計画の見直しを行っている。	利用者、家族の要望の変化に応じて臨機応変に見直されたり、地域でその人らしく暮らし続ける為に本人の意向や家族のアイデアを取り入れた介護計画が作成されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやカンファレンスの機会をもち、ケアマネジャー、管理者、スタッフが協力し、ケアの検討を行い家族にも十分な説明を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望の把握を行い柔軟にニーズに応えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとして、社交ダンスや大正琴、カラオケ、紙芝居などの受け入れを行っている。デイサービスの利用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療を受ける医療機関の強制は行わない。家族の希望される医療機関を利用する。	家族の希望するかかりつけ医も利用して受診時には付き添いも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の医師、看護師との協力体制があり、月2回の検診結果をもとに、訪問看護も週1回受けて健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関と連絡を密にし入院先病院の紹介、退院後のケアに至るまで連携体制を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして対応可能な状況について、あらかじめ医師、家族と相談し方針決定を行っている。	ターミナルケアの実施はまだないが、かかりつけ医、家族を交えて話し合いが行われ希望があればターミナルケアを受け入れる方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の対応について定期的に意識付けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者の資格を取得し定期的に災害時の避難訓練を行っている。防災防火設備の施工が出来ている。	防災、防火設備が整備され利用者、職員も参加しての訓練が行われている。避難行動をスムーズに進められるよう利用者と一緒にゲーム感覚を取り入れて行うなど工夫されている。	近隣の人への協力依頼や参加など協力者の発掘を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護についてミーティング等機会を捉え研修している。トイレ誘導等さりげなく声掛けする。	職員の言葉かけは丁寧で誇りやプライバシーを大切にし、さりげない声かけでケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	強制することなく利用者の意思によるケアを実践、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れにおいても利用者の希望やペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに対するアドバイスは必要であれば行うが強制はしない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食も月1回行い、また利用者の調理参加も可能な限り行っている。スタッフも一緒にテーブルを囲み食事している。	おいしいものを食べていただきたいと職員の心のこもった手料理が提供され、利用者も職員と一緒に片付けをし楽しい食事がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量について把握を行い不足がちである場合は、早急に対応出来る様支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来る限り自立排泄の支援を基本とするトイレ誘導を行う。	一人ひとりの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行い、利用者の状態に応じて歩行介助も行っている。夜間はポータブルトイレを使用してトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック等で便の状況を把握し便秘状態にある場合は、安易に薬にたよらず飲食物を工夫する等の方法で対応を考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめる様支援している。強制は基本的にしない。	週2～3回 3時から夕食前までの時間で入浴を楽しんでいる。	お風呂好きの利用者も多く希望に合わせた入浴が楽しめるような工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の持つ生活パターンを乱したり、強制はしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬情報等により薬の目的、副作用等を十分理解し服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活への参加を促し残存能力を高める努力を行う。強制することなく自然な形で行える様支援する。習字の好きな方は垂れ幕を書いてもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩等についても強制することなく支援している。花見、紅葉狩り等機会をとらえてドライブに出る様心がけている。	車椅子で散歩に出かける人、買い物に行く人と個人の希望に合わせて外出している。利用者の希望で月1回の外食や近所のクリスマスイルミネーションの観賞へも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な利用者については、買い物等についてもスタッフは支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等について一切規制はしていない。家族との年賀状交換の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面等を利用し季節感を出し四季を感じてもらえる配慮をする。手作り作品を飾る。	玄関には季節の花が植えられ、金魚鉢には利用者の育てている金魚が泳ぎ、食事のおいしそうな匂いが漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室意識があり友達になった人の部屋で話しをする利用者もあり、一切強制はなく自由であることを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込み等についても規制は一切していない。特に使い慣れた椅子を持ってこられている方もいる。	仏壇や家族と一緒に写った写真、思い出の品々が持ち込まれ利用者の希望にそうよう家具の配置を考え、暖かい雰囲気のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には自分の写真、名前プレートを貼ったり、大きめの字で掲示したりしている。		